

イノシシ死体の適正処理の事例



比較のため埋置処理をしていない（写真手前の個体）ことに注意

死体適正処理の開発研究(R6)の知見

0日目：10月14日（月・スポーツの日）

- イノシシ2頭を実証地の協力者が捕獲、止め刺しした後、調査サイトに運搬
- 実証地において外部計測と耳片を採取した後、消毒と生分解性シートで包埋（日没）

1日目：10月15日

- 現地踏査による生息調査やセンサーカメラチェック等を実施し、包埋死体を確認
- 後脚部分のシートの損傷を確認（カメラチェックによりアナグマとタヌキの出没とタヌキによるシートの噛みつきを確認）
- 露出部分の消毒を行うとともに、周辺から採取した土により死体を埋置（日没）

3日目：10月17日

- 他の実験を行った後に現地を巡回した際、離れた場所から（イノシシっぽい）腐敗臭を認知
- イノシシ死体の包埋処理等に対して、覆土の消失と多数の露出を確認
⇒土による被覆で応急処置を実施

イノシシ死体へのタヌキの接触(要適正処理)



死体適正処理の強化対策の検討

土による被覆で応急処置を実施後

30分かけて被せた土
がほとんどなくなる

- 被覆用の土壌の購入を検討
 - 土嚢袋に砂利を入れる処置を検討
 - ブロックによる処置を検討
 - ワイヤーマッシュ等による処置を検討
- 作業性や費用、効果等を検討した結果・・・



⇒ 亀甲金網等を入手し、適正処理強化対策を実施

農林水産省：

「野生いのししにおけるアフリカ豚熱の浸潤状況の的確な把握と感染拡大防止のための基本方針」のうち、
＜参考資料3＞ 搬出困難地域における汚染物品としての野生いのししの死体等の消毒方法